

◆受験生へ贈る「合格りんご」を収穫しました!

11月27日、朝日中学校1年生が総合的な学習の時間に合格りんご（文字入りりんご）の収穫作業を行いました。生徒は今年春から町のりんごの歴史や現状、栽培方法などを学んだうえで摘果などの作業を行い、1年を通して町特産のりんごについて学習しています。10月、袋外しと「合格」のシール貼りを行った際はまだ色が付いていないりんごが、今回は綺麗に赤くなり、文字もくっきりと浮かび上がっていました。収穫作業をした生徒は「3年生が合格できるよう、願いを込めて合格りんごを渡したい」と話していました。

収穫したりんごは、12月中旬に受験を控えた3年生へ贈呈する予定です。



10月に行ったシール貼り



合格りんごを収穫して笑顔の生徒たち

◆急増する詐欺! 家族内のコミュニケーションを!!

~私にかぎってが 一番危険~



12月は昔から金融犯罪の多い月です。（古い事件ですが未だ未解決の通称「三億円強奪事件」も昭和43年12月10日です）

最近、様々な金融犯罪が発生し、その手口も巧妙になっています。警察官や金融機関職員を名乗り、訪問や電話でお客様のキャッシュカードを預かって暗証番号を聞き出す事例や役場職員になりすまし「医療費や保険料過払いの還付金がある」と電話し、ATM操作に誘導する事例が発生しています。警察官や金融機関、役場職員は、暗証番号を聞くことや携帯電話でATM操作に誘導することはありません。不審な電話には個人情報やATMに行ったりしないことが重要です。他にもメールによるフィッシング詐欺やSNS型特殊詐欺、SNS型ロマンス詐欺等多種多様な詐欺が県内でも発生しています。普段の生活において不審と思えることは絶対に一人で決定しないで、家族の方や警察、役場に連絡してください。自分は騙されないとの思い込みは危険信号です。

もう一つ、身の回りを振り返ってみましょう。自宅で保管する「タンス貯金」です。現金をすぐ使うから、金融機関に預けても利息が付かないから等の理由から一時期増加していましたが、近年相次いだ広域強盗事件等を意識し「タンス貯金」は減少しています。しかし、まだまだ多くの現金を自宅に保管している人が多い現状です。被害防止に加え認知症による紛失や相続にかかる手続きリスク回避のため、この機会に家族内で話し合ってみてはいかがでしょうか。身近な家族に相談することが一番の予防策です。

朝日町から、被害「ゼロ」を!

あとがき

「お酒は熱めの燗がいい」「肴はあぶったイカでいい」をこよなく愛す小生。12月は、忘年会等何かと酒席の多い季節。お酒と人付き合いは、ほどほどが良いとされていますが簡単なようで難しいものです。先人の教えの一つとして、「酒で失敗したくないなら、しらふの時に酔っ払いを見ること」と説いている。また、酒は「百薬の長」とも言われる一方「飲みすぎは毒」になる（小生の体験は毒多し）。日本酒が、「令和の米騒動」から酒米が食米に転作され酒米不足の危機にあるという。このままでは、日本酒の減産、値上げになると言われています。日本酒愛好家にとっては、寂しい限りです。詩人・河野進さんの「無尽蔵」という詩では、人一人を大切に、米一粒も大切に、時一刻も大切に等を詩っています。万物全てにおいて限りがあり、使うのは人それぞれで価値もそれぞれで変わるもの（生むもの）と小生は考える。年の瀬を迎え、皆さん今年を振り返ってみてはいかがでしょうか。人、物、時等、何一つ無尽蔵ではありません。農産物作りも相通じるところがあるのではないのでしょうか。皆さんが笑顔で新年を迎えることをお祈りします！（卯月）

あさひりんごの郷協議会 発行責任者 会長 鈴木 浩幸 E-mail: asahiringonosato@gmail.com
事務局 朝日町農林振興課内 〒990-1442 山形県朝日町大字宮宿1115 TEL (0237) 67-2114 FAX (0237) 67-2117

朝日町「無袋ふじ」トップセールス

~大阪・東京の2市場でPR~

管内1市4町とJAさがえ西村山などでつくる「さがえ西村山農産物安全・安心対策推進会議」は11月18日、大阪本場（大阪中央青果株式会社）において、りんご晩生種の主力「無袋ふじ」のトップセールスを実施しました。

大阪本場での実施は今年が初めてで、鈴木浩幸町長、JAさがえ西村山の安孫子常哉組合長ら5名により、市場関係者等に無袋ふじの「安全・安心」「美味しさ」を強くアピールしました。

トップセールスでは、鈴木町長が、「無袋ふじ発祥の地、山形県朝日町から農家のみなさんが丹精込めて育て、太陽の光をたっぷり浴びた日本一美味しい蜜入りりんごを持ってまいりました。多くのお客さまにお届けくださるようお願いいたします」と挨拶しました。



朝日町のりんごをPRする鈴木町長



最高品質の無袋ふじ

その後、市場関係者に試食用となる「無袋ふじ」と「りんごジュース」200セットをプレゼントし、糖酸バランスのとれた味と果肉がしっかりしたりんごであることをPRしました。

また、11月20日、東京青果株式会社（大田市場）へ表敬訪問を行い、従来以上の販売拡大を依頼しました。

第46回 朝日町産業まつり開催

~町全体が りんご一色に染まる~

11月22日、23日に朝日町産業まつりが開催され、会場内では、産業まつり名物となった「りんご釣り」に家族連れ等町内外からのお客様の長蛇の列ができました。準備した約1,000個のりんご全てが釣りあげられ、子供達からはもっと釣りたいとの声が上がりました。会場は、朝日町りんごに魅せられた町内外のお客さまにあふれ、町全体が活気づき例年以上に大盛り上げを見せました。また、りんごだけでなく水稲部会による「米の販売」や白菜、大根等農産物を販売する店舗でもお客様が行列をなし購入するなど、美味しい朝日町の農産物の認知度が益々高まっていることが実感できました。

なお、今回の産業まつりでは、テレビの生中継、ニュースや新聞でも報道されたこともあり、産業まつりへの来場者は年々増えており「道の駅あさひまちりんごの森」でも駐車場が満車状態が続く等、1日4千人を超えるお客さまが訪れ町全体が賑やかな2日間となりました。



りんご釣りを待つ長蛇の列



生中継後釣りを楽しむアナウンサー(中央)



りんご釣り名人達の共演

◆「いんどごだよ!朝日町」就農フェアに出展しました!

今年度開催の就農フェアには、朝日町農業研修生受入協議会として年3回出展したところ。 (内容は、下表のとおり)

これらのイベントには、農業者の後継者不足や労働不足対応の一助とするため、全国から就農を目指す人材を幅広く募るため出展しました。

今年度出展した3回の就農フェアでは、全国各地から来場者が訪れ、農業に興味があり就農にかかる情報を収集している方や実際農業を新たに始めたいという方、また、無袋ふじづくりに興味のある方など目的は様々でした。

特に東京開催の就農フェアでは、首都圏の来場者が多く、朝日町の認知度は低くPRはまだまだでしたので、朝日町の文化や歴史等を通したりんご産業振興について、これまで以上に丁寧に伝え、一人でも多くの皆様に朝日町を知ってもらいながら就農者を募りました。

来場者が回答したアンケートを見ると、朝日町りんごの素晴らしさに感謝を受けていただけたと思われます。



朝日町をPRするスタッフ(11月23日)



農業の魅力をアピールする協力隊(11月23日)

<令和7年 就農フェア出展内容>

	マイナビ農林水産フェス	新・農業人フェア	新・農業人フェア
期日	7月12日(土) 11時~15時まで	9月15日(月) 10時~16時まで	11月23日(日) 10時~16時まで
場所	仙台市 夢メッセみやぎ	東京都 東京国際フォーラム	東京都 東京ビッグサイト
ブース訪問者	10人	13人(11組)	24人

◆りんご収穫 農業体験ツアー

~遊佐高校生とのりんごの架け橋と絆~

朝日町を会場に県立遊佐高校に通う県外出身の生徒8名による「農業体験ツアー」が10月19日、朝日町と遊佐町との地域おこし協力隊の企画により開催されました。同校は、「地域みらい留学」制度を活用して県外出身の生徒を受け入れています。

この農業体験ツアーは、両町の地域おこし協力隊有志達が、高校生たちからりんごに直接触れてもらい収穫の楽しさと農業の大切さについて知ってもらうことを目的として企画しました。

体験ツアーでは、古楨の清野忠市さんの協力により「りんごの収穫体験」を行い、また、ぱれっと企業組合で「りんごジュースづくり」を見学し、りんごの収穫から加工までの一連の作業を勉強しました。園地では、清野さんからきれいな色が付く「有袋」と甘味が多い「無袋」りんごづくりの特徴等を学習し約120個の熟した美味しいシナノスイートを収穫しました。

参加者からは、「摘花などの作業を実際お手伝いしてみたい」、「地元の人の温かさを感じた」、そしてなにより「りんごがとても美味しかった」等の感想がありました。

企画主催の代表者は、「小さな体験でしたが、参加した生徒の皆さんから喜んでもらい、日本一美味しい朝日町りんごを参加者それぞれの地域に発信できたことが一番の成果です」と振り返りました。



笑顔の遊佐高生たち



シナノスイートの収穫

◆令和7年度りんごの各品評会開催

朝日町りんご生産振興の一環として、「第45回朝日町りんご品評会」が11月21日(金)に朝日町町民体育館で開催されました。無袋ふじ56点が出品され、西村山農業技術普及課長を始め5人の審査委員が形状、色沢、玉揃え、糖度等を総合的に審査し判断しました。審査委員長からは、「朝日町のりんごはレベルが高い。今年も気象条件が厳しい中、生産者の情熱や丁寧さが見える素晴らしいりんごだった」との評評がありました。なお、表彰式は、1月に開催予定のりんご生産者大会で行います。また、JAさがえ西村山主催の「第32回さがえ西村山りんご『ふじ』品評会」も同日に開催されました。

各品評会の町内の方の成績は、次のとおりです。

◆第45回 朝日町りんご品評会

- 最優秀賞 村山 茂雄 (大谷第七)
- 優秀賞 白田 憲彦 (大谷第三)
- 金賞一席 菅井 誠吾 (沼向)
- 金賞二席 村山 征一 (大谷第七)
- 金賞三席 阿部 為吉 (常盤)

◆第32回 さがえ西村山りんご『ふじ』品評会

- 最優秀賞 海野 義文 (大暮山)
- 優秀賞 阿部 為吉 (常盤)
- 優秀賞 井澤 壽一 (夏草)
- 優賞 長岡 秀昭 (前田沢)
- 優賞 成原 誠 (新宿)
- 優賞 海野 師輝 (能中)
- 優賞 菅井 聡 (沼向)



山形県の果樹栽培150周年を飾るりんご



無記名のりんごを厳しい眼差しでチェックする審査員



受賞された見事なりんご

◆着色が良好な早生りんごと省力樹形を視察

町果樹組合連絡会議が主催の「早生りんごおよび省力樹形の視察研修会」を8月18日に県農業総合研究センター園芸農業研究所で開催しました。この研修会は、近年の気候変動によるりんごの着色遅延や品質低下、労働力不足による生産力低下への対策を考えることを目的として開催したものです。特に影響が出ている早生りんごについて、「紅みのり」や「シナノリップ」などの着色が良好な品種を視察し、併せて、作業性が良く早期の収穫が見込める高密度栽培の「Y字栽培」「ジョイントV字栽培」などの省力樹形も視察しました。

視察したような新たな品種や樹形は、気候変動や労働力不足への対策になり得るという面もありますが、生産者の個々の園地状況や経営に適しているかどうか、気象災害に強いかなどといったことも考慮する必要があります。そのため、どの生産者や園地にも当てはまる万能な対策ではありません。

そのため、りんご産地を維持していくためにも、今後も今回のような研修会を積み重ねながら、新たな栽培技術等を検討し続けていきます。

(事務局 農林振興課報告)



紅みのりの視察



省力樹形「Y字高密度植栽培」